

五感が目覚める
世界のホテル

CREA

Traveler

クレアトラベラー

100
文藝春秋
2022 Vol. 1
2022年11月1日発行(25.8.11月1日発行) 第17巻第4号

進化する
日本のホテル
世界の街角から
コペンハーゲン

Italy
France
England
United States
and more...



HOTEL

愛しきあの街のホテルへ

フィレンツェ／トスカーナ／パリ／ブロワ
ロンドン／コツツウォルズ／ニューヨーク／ホノルル
東京／大阪／京都／奈良／北海道／沖縄……

〈右〉サン・ジョヴァンニ広場からサンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂を望む。〈左〉ヘルヴェティア&プリスツル(p.40)の“ジュニア・スイート・ビュー”。伝統工房特注による内装は気品に満ちている。

Episode 1

Italy

Firenze, Toscana

文=大平美智子 写真=仁木岳彦(p.34-47)



芸術の都を味わい尽くす 快適なステイは進化する

天までもがその美しさに嫉妬している、と美術史家ヴァザーリが賛美した花の都フィレンツェ。なるほどトスカーナのまぶしい陽光は、街に満ち溢れる造形美に容赦なく射し込むよう。

旧市街をそぞろ歩けば、暗い小道の奥に忽然と現れる優美な赤茶色の巨大クーポラに息を呑み、ふいに出会いうドナテッロやミケランジェロの陰影深い彫像が飛ばす眼光にドキリとする。美術史上に燐然と輝くルネサンスの巨匠たちの、人間臭い英雄伝説が今でも街角に漂うフィレンツェには、アルノ川とともにマジカルな時間がゆったりと流れている。

この何百年も変わらなそうに見える風景の陰には、フィレンツェ市民が命をかけて作り上げ、守り抜いてきた熾烈な歴史がある。

紀元前から土壤に恵まれ、商業や製造業に長けた民族は、莫大な富を得て、やがてルネサンス運動を巻き起こす。その過程で、ノブレス・オブリージュとして都や領地の美化に資金投入し、トスカーナの田園でさえも風情ある集落や糸杉並木で飾つていったのだ。

栄華が遠く過ぎ去った今日でも、フィレンツェ流美意識を継承する市民層は厚く、伝統ある文化財保護組織には国内外から寄付が集まり、近年は外国資本も参入し、古都の美は未来に向けて輝きを増している。さらにパンデミックを経て、華麗に衣替えした宿泊施設のオープンが続いた。

世界屈指の芸術の都でしか味わえない極上ステイを満喫したい。

Information

時差:-8時間

(夏季は-7時間)

通貨:1€≈140

入国制限なし

(2022年9月28日現在)

Firenze

Italy
Palazzo Portinari Salviati

パラツォ・ポルティナーリ・サルヴィアーティ



ルネサンスの
芸術に溢れた
貴族の館へようこそ

〈上〉ルネサンスの中庭がメインホールに。〈下〉“ガリレオ・ジュニア・スイート”的窓から大聖堂を眺める。



日常に回帰した古都は
毎日がまるで祝祭のよう

2022年後半のイタリアは、マスクやパンデミック報道はいつの間にかフェードアウトし、すっかり日常回帰モード。

入国時のPCR検査陰性証明提示なども免除され、旅行熱を溜め込んだ欧米の観光客が続々と押し寄せている。

なかでもフィレンツェは人気のデステイネーションらしく、ホテルやレストランはどこも大盛況。しかも広場から路地裏に溢れ出したテラス席で憩う人々で賑やかこの上ない。昼も夜もどこまでも宴が続く、真夏の夜の夢のよう。

花の都は、この時を予見していたかのように行動制限下でも弛まずグリーミングし続けていた。モニュメントの大掛かりな修復が行われ、様々な施設のリニューアルや新オーブンが続く。

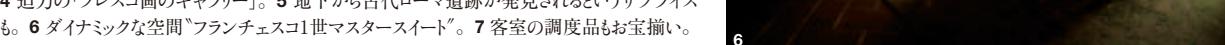
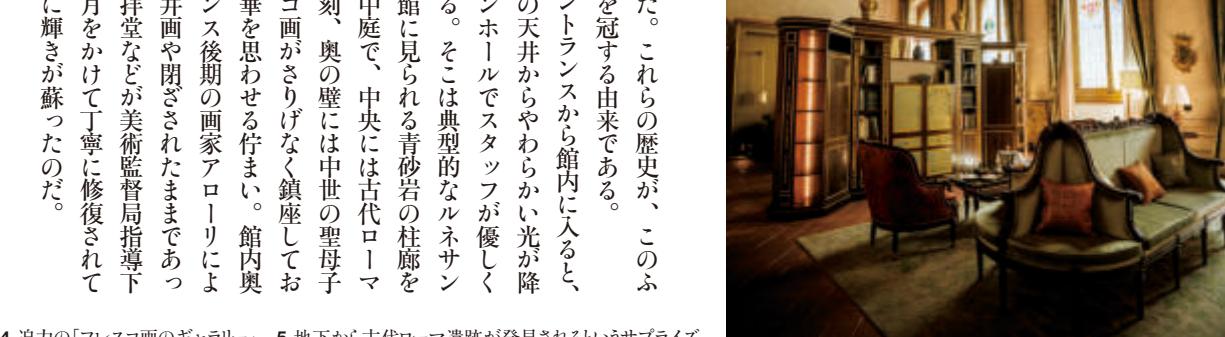
特に目立ったのは、旧市街で長らく門を閉ざしていたヘリテージ級建造物のパリツクデビューや、ルネサンス期の貴族の館で重要文化財を秘蔵する「パラツォ・ポルティナーリ・サルヴィアーティ」(P37)や、名門ホテル「ヘルヴェティア&ブリストル」(P40)も全館修復リニューアルに続いて隣の古館を買い取り新館を建設。中心街のど真ん中で360度パノラマが楽しめる大型テラスを持つ「ホテル・カリマーラ」(P44)など、パンドミック中に続々とオープン。

あたかも14世紀のペスト後に、ルネサンス運動がやつてきたかの如く再生し続けるフィレンツェ。街全体がヘリテージの古都の底力は未知数だ。



1 古代ローマ時代に起源をもつ町の象徴、ヴェッキオ橋。2 大聖堂の周りもテラス席でいっぱい。3 パノラマの名所ミケランジェロ広場は空前の混み具合。4 夕陽に染まる古都の美は永遠。5 有名ブランドの寄附による修復後、通水しマニエリスム然としたネプチューンの噴水。6 共和国広場のメリゴーランドも復活。7 飲食店の客席で埋まったファエンツア通り。





Palazzo Portinari Salviati

DATA Via del Corso 6, 50122 Firenze
☎+39 055 535353 Idchotelsitaly.com/en/palazzoportinarisalviati-florence
客室数／13 料金／1室650€～

ウズラの詰め物ヒョウアグラのアソリコットソース”。5・6 優雅な“サロット・ポルティナリー”でいざお茶と朝食。「シック・ノンナ」の厨房で仕込んだデザートや卵料理はスペシャル。

コツタの床は風合いよく磨き抜かれ、調度品もロンドンのザザビーやクリスティーズで競り落としたアンティークの逸品ばかり。バスルームの新設にあたっては壁も文化財なので穴も開けられないため、客室内を大理石尽くしのボックス型に仕上げ贅を極めた。

味。フィレンツェ近郊の新鮮な食材を生かしたシグニチャーレートを、貴族が饗宴を催した中庭でゆつたりといただける。メインサロン内の「サロット・ポルティナーリ」での朝食やランチも同厨房のものなのでお得感たっぷり。毎週月曜には館内文化財ハイライト・ツアーも企画されているので見学＆食事だけでもおすすめだ。

さらに庄巻は、ノーブル階にある「ダンテ」「ベアトリーチエ」など、ゆかりある人物名が付いた4つのアイコニック・スイートルーム。高さ6メートルもある天井からシルクゴブランのカーテンがたっぷりと下がり、15世紀の木製装飾天

イニング「シツク・ノンナ」だ。こちらはヴィト・モツリーカ氏が率いるフーディーズ待望のレストラン。フォーシーズンズホテル時代から、その安定した腕前と人柄が褒め称えられたヴィト氏が今めざす料理は、生まれ育ったルカーノ地方

A collage of five images showing interior design elements: a hallway with a long table and chairs, a floor with a decorative pattern, a textured wall, a textured ceiling, and a textured floor.

歴史が、このふ
るらかい光が降
り、館内に入ると、
空的なルネサン
スツフが優しく
背岩の柱廊を
には古代ローマ
は中世の聖母子
よく鎮座してお
行まい。館内奥
家アローリによ
られたままであつ
たのだ。

100



花の都の中心に立つ
迎賓館ホテルにて
その奥深い歴史に浸る

Firenze^{Italy} Helvetia & Bristol

ヘルヴェティア&ブリストル



グランドツアーフィーリー時代の面影を残す大階段や廊下も、当時の素材や色に忠実に修復。輝きが蘇る。



1 メインホール奥にあるアール・デコ様式の「ウィンター・ガーデン」。2 メインホールもユニークな円形ソファに刷新。3-6 「ブリストル」館のスイートルーム。全館モダンシックな内装。

伝統職人工房の技が光る ラグジュアリーな空間

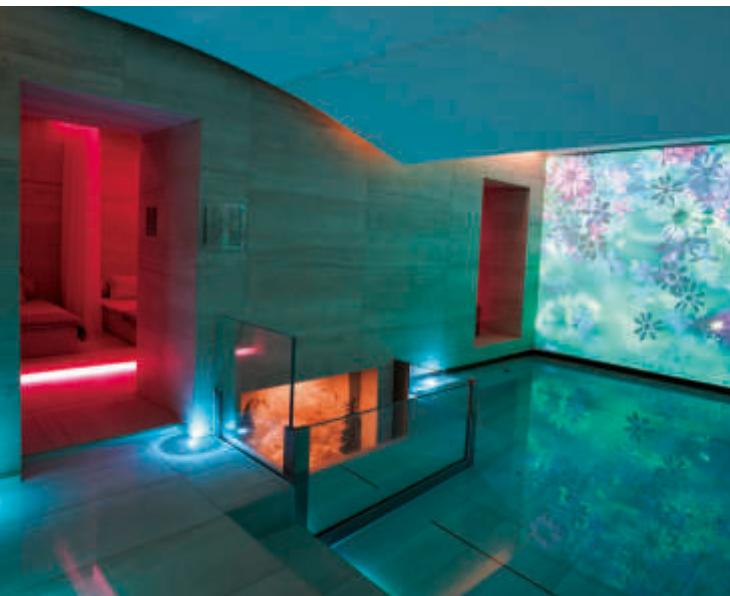
19世紀末、迎賓館ホテルとしてデビュートした「ヘルヴェティア&ブリストル」は、大聖堂や各名所に至便の立地で、グランドツアーディヤーでやつてきた英國貴族や著名な文豪、芸術家などの定宿であった。長らく旧市街の隠れたコンサバな5つ星であったが、2016年より地元ファミリーが経営するスターホテルズ・グループの傘下となる。フィレンツエ生まれの2代目、現社長のエリザベッタ・ファブリ氏はことのほか同ホテルに惚れ込み、足繁く通つてはインテリアを変えたりカフェテリアを拡張したりとこまご

ま手を加えているうちに居心地よいフレンチエ趣味の宿となってきた。

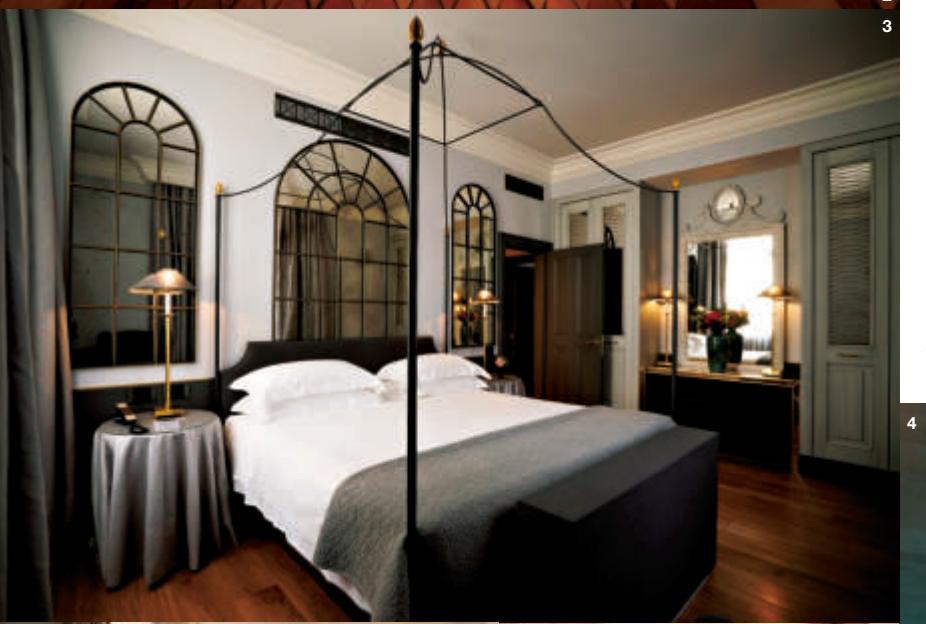
さらに2019年、全館の大掛かりな修復&改築工事に踏み切る。19世紀の施設やアンティークインテリアを国際的にも著名な地元の修復工房に依頼し、ファブリックも由緒ある伝統絹織物工房で新調するなどして、オーセンティックなエルガンスと輝きを取り戻した。さらに隣接している元ローマ銀行の18世紀の館を買い取り、2021年に新たに25の客室を増設。ザ・リーディングホテルズ・オブ・ザ・ワールドにも加盟し、中心街で唯一、世界トップのラグジュアリー宿泊施設の仲間入りを果たしたのだ。

滞在先の楽しみに欠かせないグルメ部

4 地下にあるトラベルティノ大理石で統一された優雅なスパ。広い温水プールにメニューも充実。5 ジムには工事中に発見された古代ローマ遺跡が。なんとテルメ跡だったそ。



2



3



6

5



3 チェリーと紫のダマスク織はフレンチコバルディ家のオリジナル柄。18世紀から貴族の家々が共同経営していたフレンチエ伝統織物工房製で、現在はステファノリッチ社が経営。

「工房と市民との密接な関係が未来へと続く伝統の要」

看板支配人が語る リュクスな館内の秘密

パンデミックも吹き飛ばすようなダイナミックな改築の後、当館はさつそくワールド・ラグジュアリー・ホテル・アワードのラグジュアリー・ヘリテイジ・ホテル部門賞などステータスある賞に多数輝いた。オーナーはロンドン、パリ、ニューヨークなど全世界で30軒ものラグジュアリー・ホテルを経営するホスピタリティのプロだけに、地元のヘリテイジ、「ヘルヴェティア&ブリストル」のボタン・シヤルを見抜いていたのだろう。

世界を飛び回る経営陣に代わって、変遷を見守りつづける看板支配人フェデリコ・ヴェルサーリ氏に、話を伺った。

「ファブリ社長はこのホテルを大変貴重にしていて、イル・ミオ・ジョイエッロ（私のジュエリー）と呼んで磨き上げたのです」と、人懐こい笑顔で語る支配人。

「改築により旧館を『ヘルヴェティア』、新館を『ブリストル』と区分けしました。『ヘルヴェティア』館は、19世紀の様式を大切に、全館をくまなく修復しました。約200点あつた17～18世紀のテーブルや椅子は、フレンチエのカシャー二工房で直し、カーテンや壁布などはフレンチエ伝統織物工房で新調しました」

カシャー二工房は、ウフィツィや海外の美術館の作品を手がける世界的トップの修復工房だ。

「一方『ブリストル』館は、ファブリ社長のお気に入りのインテリア・デザイナー、アヌーシュカ・ヘンペルに依頼しました。こちらの鏡や大理石モザイクのテーブル、ファブリックなどもフレンチ

「最高の立地なので、庭を散歩するように古都を楽しんでいただきたい。そして、フレンチエ伝統の粋が満ちる館内を活用して、ごゆっくりくつろいでいただけたら幸いです」



Helvétia & Bristol

DATA Via dei Pescioni 2, 50123 Firenze
☎+39 055 26651
collezione.starhotels.com/en/our-hotels/helveta-and-bristol-florence
客室数/89 料金/1室550€～



フェデリコ・ヴェルサーリ支配人。大都市やリゾートの高級ホテルの要職を歴任してきたホスピタリティのプロである。

1 テラス席でいただいた朝食はエクスルーシブ感たっぷり。2 「フレンチエ風レッドサラダ」。3 ディナーのアミューズをカクテルと合わせるのが当世流。4 「シェフのスペアリブ」。5 シグニチャーブレートのブリモ「チブレオ風クリスピッパ」。6 「マッサリー」の美しい菓子類。7 ジャムやビスケットはお土産にぴったり。

2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

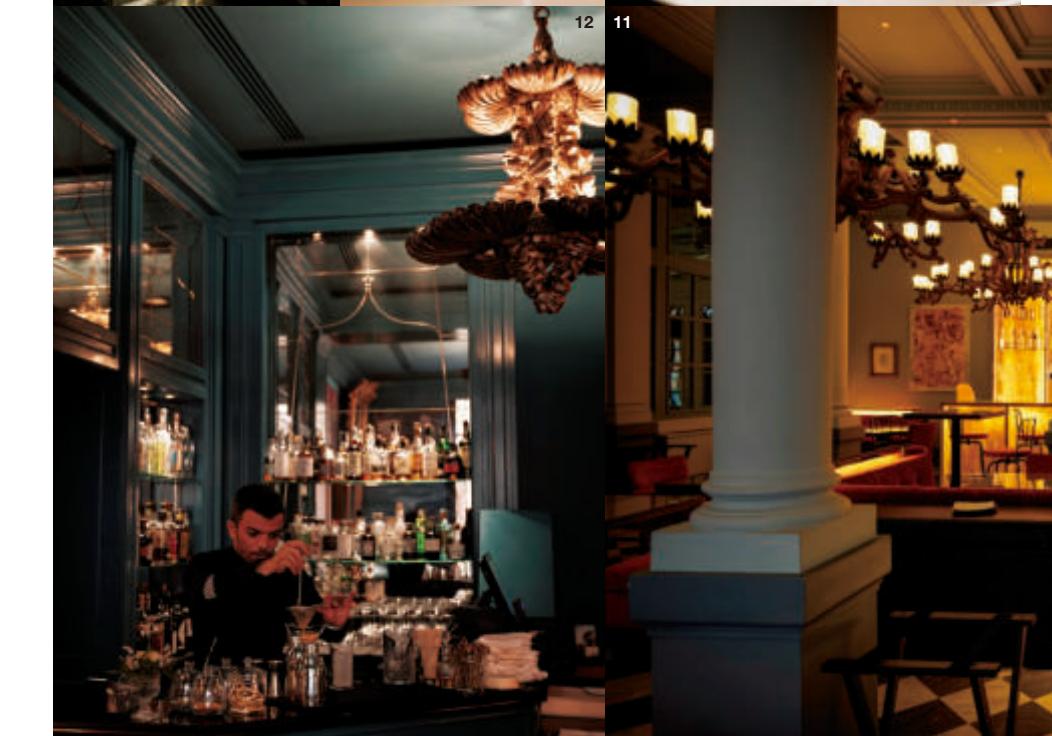
門も劇的な展開となつた。2021年5月からフレンチエ伝統創作料理の第一人者、ファビオ・ピッキ氏とのコラボにより「チブレオ・カフェ」を開店し、同年冬には、地上階に新設されたゴージャスな大ホールに名店「チブレオ・リストランテ」の姉妹店をグランドオープンして世間を騒がせた。サンタンブロージョ市場エリアに1979年から店を数軒構える彼は、素朴な伝統食材を最高に美味い料理に仕立てる鬼才。また地元文化の語り部で書籍も多数残した。残念なが、長年の右腕シェフ、オスカーベリーニ氏が今年急逝してしまったが、ファビオ氏は今年急逝してしまったが、長年の右腕シェフ、オスカーベリーニ氏がいるから安心である。

一方、菓子部門もハイエンドを目指す。

昨年近くに、神の采配のごとく、イタリアを代表するカリスマ・パティシエのイジニオ・マッサリ氏が優雅なカフェテリア＆ラボラトリを出店。マエストロ・マッサリは、権威あるイタリア菓子職人協会の創設者でフランスのルレ・デセール協会顧問というヨーロッパ菓子職業界の重鎮である。フレンチエは美味しい菓子店に乏しい事情もあり、同ホテルではさつそくホテル内取扱いの専属契約を結び、朝食やサロン用に隣のイタリアトップのスワイツ工房の焼き立てを確保して、全館のグルメ度をウルトラ級にアップ。ホテル前には優雅なソファのテラス席も張り出し、中心街の新たなグルメスポットの誕生となつた。

昨年近くに、神の采配のごとく、イタリアを代表するカリスマ・パティシエのイジニオ・マッサリ氏が優雅なカフェテリア＆ラボラトリを出店。マエストロ・マッサリは、権威あるイタリア菓子職人協会の創設者でフランスのルレ・デセール協会顧問というヨーロッパ菓子職業界の重鎮である。フレンチエは美味しい菓子店に乏しい事情もあり、同ホテルではさつそくホテル内取扱いの専属契約を結び、朝食やサロン用に隣のイタリアトップのスワイツ工房の焼き立てを確保して、全館のグルメ度をウルトラ級にアップ。ホテル前には優雅なソファのテラス席も張り出し、中心街の新たなグルメスポットの誕生となつた。

8 “国産トマト4種のカラフルな前菜”。9 鉢植えスタイルの大人気のデザート。10 “チブレオ・カフェ”でも食事や本格カクテルが楽しめる。11 大人ムードな「チブレオ・リストランテ」。12 「チブレオ・カフェ」のバーカウンター。





1-5 大聖堂や宮殿を間近に望む立体式テラスでカクテルを。2 “鯛のタルタル”。3-4 “牡蠣のグリル”や“イシモチの刺身”は、重層的なスパイス使いと程よい酸味が絶妙な前菜。

歴史とモダンが融合する進化系のフレンチエ滯在

ホテル名のカリマーラとは、所在地の通りの名で、中世、ここに大工房を構えていた染色業などの組合「アルテ・ディ・カリマーラ」に由来するもの。洗礼堂や大聖堂の建築に大貢献した偉大なる組織であった。

そんな歴史ある名を冠した当ホテルは、サプライズがいっぱいの宿。ヴェッキオ橋まで1分ほどのスペシャルな立地にあり、入口は小さくて見逃してしまいそうだ。が、最上階には息を呑むような360度パノラマが楽しめる、3層にもなった広大なテラスを隠し持つ。

オーナーはアートギャラリーも経営するイタリア人アーティスト、カーメル・イラン氏。なるほど館内には100点ものコンテンポラリーアート作品が点在し、客室は建築家アレックス・メイトリスによるカラフルなモダン・デコを組み合わせたユニークな折衷様式だ。

絶景のルーフトップ・レストランではイスラエル人シェフ、モフ・ナフタリイ氏が、フランスと日本での経験を生かした地中海料理でディナーを彩る。

古都の歴史とインターナショナルティストが融合した館内はスタッフも充実している、レセプションは24時間対応という。スピアティも、オープン後瞬く間に人気スポットになつた所以である。

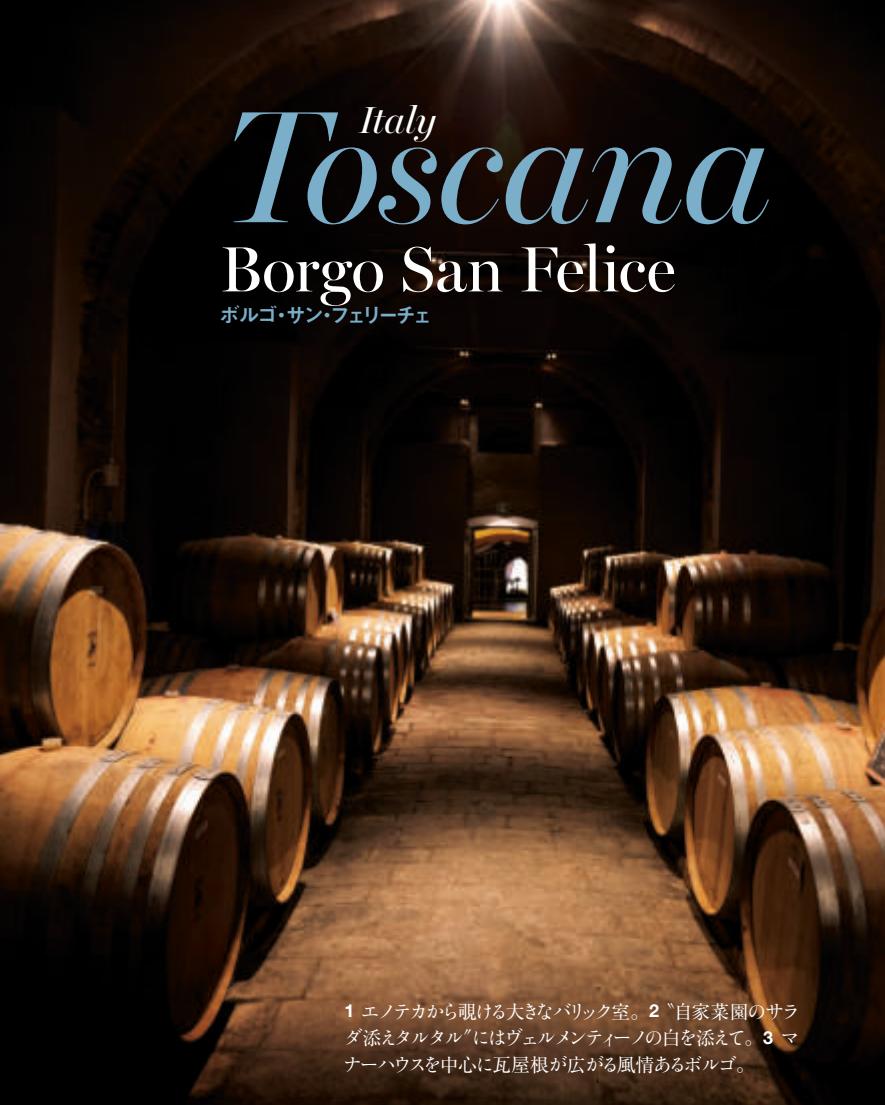
Hotel Calimala

DATA Via Calimala 2, 50123 Firenze
☎+39 055 0936360 hotelcalimala.com
客室数/38 料金/1室250€~

美を極めた街を望むする
贅沢な時間を過ごす



Italy
Firenze
Hotel Calimala
ホテル・カリマーラ



1-3 厳選した食材の旨みを引き立たせる技はさすが。2 新進気鋭のシェフ、ファン・カミロ・キンテロ氏とスタッフ。食部門は世界的なシェフのエンリコ・パルトリーニ氏も監修。

貴族の莊園が生まれ変わった オーベルジュで 極上のワインを味わう



エコロジカルな醸造地で
トスカーナの休日を満喫
ボルゴとは、古来、豪族や貴族たちの領地や集落を意味する伝統ある呼び名。紀元前に起源を遡るという「ボルゴ・サン・フェリーチェ」は、そんな村全体で快適ステイが楽しめるアルベルゴ・ディ・フレーズ型の美しいオーベルジュだ。

このあたりはトスカーナ大公の命により18世紀から銘醸地として保護指定された名高きキャンティ・クラシコ地区の心臓部であり、同施設は1700ヘクタールもの広大な敷地とミシュラン1つ星レストランも完備する。

ボルゴを復活させたのは44年前から参

入したアリアンツ社経営陣の「美観への愛と情熱、地域保護と復興」という、まるでルネサンスのフィレンツェ市民のようないい経営理念だ。早くから太陽光パネルやバイオマスなどクリーンエネルギーを導入し、SDGsの一環として2012年からは障害者と高齢者のコラボをサポートする有機菜園も開始するなど、まさにフェリーチェは幸せな環境のボルゴを作り上げた。

蔭のからまる石壁の風情ある館に泊まるもよし、有機ブドウ畑に点在するヴィラで憩うもよし。ルレ・エ・シャトー・イタリア部会長も務める支配人の目の行き届いたホスピタリティとトスカーナの田園に癒やされること間違いなしだ。

4 品あるトスカーナ・カントリー風の「プレステージ・ルーム」。5 プールサイドでも本格ランチが楽しめる。6 コルクもリサイクル。7 エノテカにはブルネットやボルゲリのワイン、オリーブオイルも揃う。8 マナーハウスのある中心広場。9 元搾油所の「ボタニック・スパ」。



Borgo San Felice

DATA Località San Felice, 53019
Castelnuovo Berardenga, Siena, Toscana
+39 0577 3964 borgosanfelice.it
客室数/60 料金/1室560€~





Borgo Santo Pietro

ボルゴ・サント・ピエトロ



1 新設のヴィラはプライベートプール付き。2 敷地内は色とりどりの花やオリーブ、柑橘類が溢れる楽園。3 シエナ渓谷に囲まれたインフィニティプールでの夕陽は格別。4 本館内にある豪華な「サント・ピエトロ・グランダ・スイート」。5 スパではオリジナルのナチュラル・コスメ「シード・トゥ・スキン」を使用。6 庭園にはモロッコ風の天蓋付きデイベッドも。バラやハーブの香りに包まれてまとろみたい。7 約120haの広さを誇るボルゴ。すぐ近くには、有名なサン・ガルガーノ修道院がある。

DATA Località Palazetto 110,
53102 Chiusdino, Siena, Toscana
☎+39 0577 75 12 22
borgosantopietro.com 客室数／20
料金／1室795€～



シリカ渓谷に潜む リトリートの桃源郷

めた宿場村であつた。800年の時を超えた現在、ここはデンマーク人オーナーのトットルツップ夫妻が手塩にかけてつくり上げた、麗しき5つ星ウエルネス・リゾートとなつた。

デザイナーであるシャネツ夫人が手がける客室は、地元の伝統職人による趣味のよい家具やファブリックに、暖炉前には革張りの肘掛け椅子も置かれたノーブル・カントリースタイル。

施設内の有機農園では、野菜やブドウミツバチに羊や豚を本格的に育て、メイドイングラン「サポリウム」では、畑から直の滋味深い料理がいただける。シーフードには新たに、各地の3つ星店での経験を持つ長いアリエル・ハーゲン氏を迎えた。

緑に囲まれた「ボルゴ・スパ」での施術や、畑での収穫から始まる料理教室に今様リトリート・ボルゴである。

めた宿場村であつた。800年の時を超えた現在、ここはデンマーク人オーナーのトットルツップ夫妻が手塩にかけてつくり上げた、麗しき5つ星ウエルネス・リゾートとなつた。

デザイナーであるシャネツ夫人が手がける客室は、地元の伝統職人による趣味のよい家具やファブリックに、暖炉前には革張りの肘掛け椅子も置かれたノーブル・カントリースタイル。

施設内の有機農園では、野菜やブドウミツバチに羊や豚を本格的に育て、メイドイングラン「サポリウム」では、畑から直の滋味深い料理がいただける。シーフードには新たに、各地の3つ星店での経験を持つ長いアリエル・ハーゲン氏を迎えた。

緑に囲まれた「ボルゴ・スパ」での施術や、畑での収穫から始まる料理教室に今様リトリート・ボルゴである。



Toscana *Italy*

Borgo I Tre Baroni

レゴ・イ・トレ・バローニ



山の幸と神秘が融合する
森のファインディング

